

助成事業完了報告書

宛先: 日本財団 会長 様

報告日付: 2008年4月28日

事業ID: 2005462647

事業名: 三河湾における自立的継続的な
海の環境学習システムの確立

団体名: 三河湾環境チャレンジ実行委員会

代表者名: 委員長 大塚耕司

TEL: 0533 - 66 - 1162

FAX: 0533 - 66 - 1190

事業完了日: 2007年 3月30日

事業費総額 1,597,742 円

助成金額 1,500,000 円

事業内容: (「何を、いつ、どこで、どのように」実施したのかを具体的に記入して下さい。)

1. 三河湾環境チャレンジ実行委員会開催

- (1) 開催日 : 2007年5月9日、2008年3月21日
- (2) 場 所 : 蒲郡市役所
- (3) 参加者 : 三河湾環境チャレンジ実行委員(別添名簿参照)
- (4) 内 容 : 各モデル小学校の思いや昨年度の実績を踏まえた今年度の方向性の検討
(最重要: 総合学習の一環として、「地域」の海を学ぶ。機械にたよらず児童の五感で興味をひく形をしていく)。
活動の検証(指導者の数や学習方法など)。教師としての活動の感想(学習へ取り入れるために)。学生によるフィールド図鑑作成の報告。

2. 小学校における海の環境学習の支援

- (1) 実施日 : 2007年6月1日、6月29日
2007年6月13日、7月12日、2008年2月2日
2007年6月14日、7月11日、11月18日
2008年3月20日～4月7日
- (2) 場 所 : 三谷小学校および竹島海岸
竹島小学校および竹島海岸

西浦小学校および西浦くじ港
蒲郡情報ネットワークセンター・生命の海科学館

- (3) 参加者 : 三谷小学校5年生全員60名 教員3名
竹島小学校5年生全員72名 教員4名
西浦小学校4年生全員53名 教員4名
- (4) 指導者 : 三河湾環境チャレンジ実行委員およびスタッフ
愛知県水産試験場研究員、竹島水族館飼育員、生命の海科学館学芸員
愛知教育大学理科課程学生、愛知県立三谷水産高校生徒
- (5) 内 容 : テーマ「海を触って、海を知る」
座学「海は生命のみなもと」
海の生き物の興味を持ってもらうことを目的としながら、生命の誕生や進化の歴史なども同時に学ぶ。そして、進化してきたヤツらをフィールドへ見に行こう！
フィールドワーク「生物に触れる」
自分たちの地域の海には、どんな進化してきた生物がいるのか。生物を採取し、自分でどのような特徴があるかを調べた「マイ図鑑」を作成。
興味をより深く
1回目の活動で、それぞれの学校において海に関する興味を持つものが違う。それを深く探してみた。アオサ、カニ、エイ、クラゲ、イソギンチャクなどの生き物や環境、生息域などの場所といったものまで。生物を採取したり、パックテストや透視度計で水質を見たり、アサリの浄化作用を見たりした。また、補完できなかったところについては、「教えて！海の先生」といった赤ペン先生的なもので後日対応した。
自分たちの地域である海を学ぶ
生物分布マップを作成したり、干潟や岩場、堤防の外と中での生息している生物の違いを調べるなど、近くの海(フィールド)の特徴を知る活動を行った。
学習のまとめ
竹島小学校は、自分たちが発見したことベスト10としてまとめ、テレビ番組風に「竹島ふしぎ発見！」という題の劇にして、学芸会で発表した。西浦小学校は、生物の祖先が進化した現代の生物を見に行く設定で、現代の生物が厳しい環境の中で生きていることを劇にして、こちらも学芸会で発表した。また、参観日に児童たちが新4年生となる3年生に自分たちが学んだことについて、まとめたB紙や作成した紙芝居を使ってレクチャーする授業を行った。三谷小学校は、総合学習の授業の中で自分たちが体験してきたことをまとめた。
三河湾環境チャレンジ環境学習成果展
各小学校の児童がこの活動を通じて作成した図鑑やまとめなどを一同に集め、誰でも見る事が出来るように展示会を行った。

3. 海の世界学習会の開催

- (1) 実施日 : 2006年7月28日
- (2) 場 所 : ホテル竹島、愛知県水産試験場および竹島海岸
- (3) 参加者 : 新城市の一般公募親子20組49人
新城市は三河湾に流れ込む1級河川「豊川」の上流
- (4) 指導者 : 三河湾環境チャレンジ実行委員およびスタッフ
竹島小学校の親子4組8名、昨年のこの会に参加した形原北小学校の親子3名、
中学生1名、環境団体1名、一般公募のスタッフ2名、愛知県水産試験場職員、
生命の海科学館学芸員、愛知教育大学教授および学生、大阪府立大学学生
- (5) 内 容 : 午前中に座学「森は海の恋人」「竹島の生き物」とフィールドでの生物採取。午
後から、その生物を持って水産試験場へ行き、マイ図鑑の作成と海と川の水の
パックテスト。合い間をぬって、人工潮汐装置や貝の浄化実験など水産試験場
の施設見学。

4. 環境学習マニュアルの作成

- (1) 題 名 : 「見つけてみよう！海辺の生き物」
- (2) 規 格 : A4版60頁 30部
- (3) 内 容 : 小学校での総合学習およびNPO等が行う1日の海のイベントで、指導者がスケ
ジュールを組むときに役立つマニュアル
- (4) 作成者 : 上記フィールドワーク指導者
- (5) 作成完了日 : 2008年3月30日

事業目標の達成状況：(目標の達成状況、事業成果、成功/失敗の要因を自己評価して下さい。)

昨年と同様に、小学校における海の環境学習支援を継続的に実施するための体制づくりとして、地元の海の関連施設である愛知県水産試験場、竹島水族館、生命の海科学館と連携し、活動を実施した。また、西浦小学校での活動は、当委員会のスタッフなしでの活動ができ、自立に向けた検証もできた。大学や高校の学生の参加もあり、特に水産高校との連携は今後のこの活動における継続について可能性が高いと思われる。

学校での取り組みは、総合学習の枠の中で実施してきた。元来、「海は危険なもの」として見られていた学校において学習の場が持てたこと、また、地域(うみのまち)のこととして、総合学習として位置づけられることが検証でき、小学校側からも継続してこの活動を行っていきたいとの言葉をいただいた。児童も、活動での様子、しっかりした発表会を見た限りでは、概ね活動に関して好感触であったと思われる。これらの経験を生かし、総合学習の単元の1つとして、学校に取り入れてもらえるような海の環境学習マニュアルを試作した。来年度は、このマニュアルを実践しながら検証し、完成させていきたい。

夏休み親子環境学習会は、一昨年、昨年と市内の親子を対象としたが、今回は当海域に流入する川の上流である地域の親子に呼びかけた。狙いとしては、海をきれいにするには山の人たちにも海を認識してもらうこと、山・川・海のネットワークの構築、環境団体等が1日のイベントとして海の環境学習ができるようなマニュアルの検証などである。目標20組50名はほぼ達成し、内容についても高い評価をいただいた(アンケートから)。一般公募により参加した環境団体の方からも「子どもたちの笑顔が多い学習会であり、多いに参考になった」との言葉をいただいた。移動手段さえ確保できれば、このつながりは継続できるものと考えられる。三河湾全体を考えていくには、今回のような広域での活動も必要であると再認識できた。

当初の予定であったボランティアによる指導者の発掘については、一般公募によって夏休み親子環境学習会に3名(環境団体含む)がスタッフとして参加し、活動の楽しさを体感したようである。ただ、今回のように用意された活動に指導者またはスタッフとしての参加は可能であるが、自分たちでこの活動をしていくのは難しいようである。

以上のことから、当委員会が目標としている「三河湾における自立的継続的な海の環境学習システムの確立」に向けて、三河湾沿いの小学校に総合学習として、海の環境学習を取り入れてもらうことを主眼に置くこととしたい。そのためには、現在活動を行っている学校が活動を継続しやすいように、また、三河湾に面する小学校が活動に取り組みやすいように作成するマニュアルを広くひろげていきたい。ただ、ボランティア指導者の発掘は親子観察会を通じながら継続して行っていくこととする。

事業成果物：(作成した報告書・印刷物・ビデオなどの名称、部数を記入して下さい。)

実行委員会の開催記録	・議事録		
海の環境学習支援の記録	・タイムスケジュール	・活動アルバム(CD)	・新聞記事
海の環境学習会の記録	・タイムスケジュール	・新聞記事	
	・活動アルバム(CD)	・アンケート結果	
環境学習マニュアル(試作品)			